

西海市の未来考える

西彼農高生がパネル討論



西海市の未来について語る西彼農業高の生徒
—西海市、西海公民館

西海市生涯学習のつどい（市教委など主催）が15日、西海市西海町の西海公民館であり、「高校生が語る西

海市の未来」と題して県立西彼農業高の3年生4人がパネル討論した。

市民約120人が見守る中、生徒たちは市内農家が量産を目指すアボカド栽培

や、市の花「カノコユリ」の増殖、長崎市中心街での販売実習など、同校で学んだ成果をそれぞれ紹介した。地域の好きなどころについて「人情味がある」「あいさつがあふれている」「豊かな自然」「食べ物がいっぱい」と挙げる一方、「イノシシが多く高校の畑も荒らされた」「車がないと買い物に行けない」と不満も明かした。

進行役を務めた県教委生涯学習課の椋本博志参事は「子どもたちが地域で得た体験は、地域を思う気持ちにつながる。古里を学ぶ子どもたちを、できることから支えてほしい」と締めくくった。

（佐崎智章）